

【トピックス】



トピックス

◆「メディア・ファッション・2001」開催 (Media Fashion)

曾根美知江

cube-f 代表

「ウェアラブル・ファッション」のキーワードが、最近、「メディア・ファッション」へと改正された。経済産業省の関連団体である「中小企業総合事業団・繊維ファッションセンター」が主催した、「IT革命と繊維ファッション産業調査研究分析WG」において検討されたものである。委員会では、メディア・ファッションの、事業化を含めた新製品誕生の可能性の調査分析を行なったわけだが、当局に、「メディア・ファッションは、近未来型の産業として期待される」旨の報告を行った。

また、石井威望・東京大学名誉教授を顧問に、メディア・ファッションに関する研究会「cube-f」も誕生し、活動を開始している。Cube-fは、研究者、学生、企業人、ファッション関係者などが集う任意の研究グループだが、コンピュータ業界とファッション業界を融合した新製品誕生を視野に入れ、基礎研究や試作、ならびにその普及活動を行っている。

普及活動の一環として、5月18日、青山スパイラルホールにおいて、「メディア・ファッション・2001」と銘うったシンポジウムとファッションショーを開催した。

シンポジウムは、「メディア・ファッションの可能性」と題するもので、コーディネータを廣瀬通孝・東京大学教授、パネラーは、コンピュータや家電企業の企業人、ロボットデザイナー、ファッションジャーナリストなどの諸氏である。メディア・ファッションの意味、普及や事業化の可能性などの考察と同時に、各人、各企業が研究開発した成果を持ち寄り発表を行った。

ファッションショーは、ある企業とcube-fが共同開発を行った「有機EL搭載のメディア・ファッション」を

中心に、東京大学先端科学技術センター学生の研究成果である「思い出記憶装置」、経済産業省の関連団体であるデジタルコンテンツ協会主催の領域型展示委員会で開発した「サイトスキャナ」などを、ショーアップし発表したものである。ショーは、少女バレリーナや研究者、学生などがモデルとして出演するという和気藹々たるものであったが、メディア・ファッションを着たバレリーナと、新しく開発された少女ロボットが戯れる場面が注目を集めた。その情景は、現代的なテクノロジーと人間の自然な姿との融合を表現し、近未来型のライフスタイルを思わせるものである。メディア・ファッションのコンセプトが伝わったであろうことは、350名を超える観客の熱気が物語っていた。

◆ CAVE プログラム 「洞窟 (CAVE) を探検しよう ～イリノイ大学 EVL からの七 つの物語 (プログラム)」

石川新一

NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]

会期：2001年6月22日(金)～7月29日(日)

会場：NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]

ギャラリーB (CAVE)、ギャラリーC (ImmersaDesk [簡易型 VR システム])

主催：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、Electronic Visualization Laboratory (EVL), University of Illinois at Chicago.

協力：日商エレクトロニクス株式会社

6月22日から7月29日の一ヶ月強の期間、「洞窟 (CAVE) を探検しよう～イリノイ大学 EVL からの7つ